

ちち かみ ほんだん  
父なる神の判断

とう  
お父さん

お父さんはどんな人だろうか。お父さんのいない人  
もいるかもしれませんが、おとうさんについて考え  
たことを、つぎの空白に書いてください。

ちち かみ ほんだん  
父なる神の判断

りっぽうがくしゃ  
律法学者たちは、イエスさまのそばに徴税人や  
つみびと  
罪人がいて、ましてや、一緒に食事をしているのを見  
すごすことはできませんでした。

きょう  
しかし、今日のたとえ話を読んでみると、父なる神  
がどういうふうに人を判断しているかが良くわかり  
ます。

ひと しつぱい こと と  
人が失敗した事、できなかった事を取り上げて、く  
どくどと説教したりしません。むしろ、失敗した人、  
せつきょう  
できなかった人が、どういう態度を取るかに興味を示  
します。

おとうと たし ちち さいきん つか は わる  
弟は確かに父の財産を使い果たして悪いことを

してしまっただけで、すべてをなくしてしまっただけに、  
初めて父のありがたさに気づきました。ただなんとな  
く生活していたのでは気づかなかった事を、自分が  
失敗した事によって気づかされたのです。

それにひきかえ、兄はどうでしょうか。自分はいつ  
もまじめに働いてきて、親にも尽くしてきたという  
気持ちが強すぎて、反省した弟を迎える父の気持ち  
にはなれなかつたようです。この話を読んで、何か  
不公平に感じる人がいれば、それは兄と同じように  
判断しているからです。

私たちは父なる神のように、なかなか他人の成長  
を見て喜べません。でも、イエスと同じように、他人  
が悲しんでいる時に共に悲しみ、他人が苦しんでいる  
時に共に苦しみ、他人が喜んでいてる時に共に喜ぶ事  
が大切です。いつも父なる神の判断を忘れないで行動  
しましょう。

